

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	制度の狭間にいる人を含め、どのような人も断らないをモットーに関係機関と連携し、地域のセーフティーネットとしての役割を果たしている
	内容	施設には様々な障害や背景を抱える人たちが入所しており、年齢層も幅広い。多様な支援ニーズに対応するため、個別支援計画は利用者を含め福祉事務所と支援方針を共有しており、他施設で断られた人も危険行為がなければ断ることはない。また、地域の生活困窮者が居宅生活を送ることが困難になった場合は、保護施設一時入所事業により速やかに受け入れるとともに、法人独自のむらやまえん生活相談所、通所・訪問事業、中間的就労の受入等、制度の狭間にいる人たちへの支援を積極的に行っており、地域のセーフティーネットとしての役割を果たしている。
2	タイトル	施設は自立へのステップアップを目指す「伴走型施設」であり、多様な日中活動の場を提供することで心身及び生活の安定を図っている
	内容	施設では利用者が個々の能力を発揮して、自立した生活が送れるよう段階的な支援を行っている。心身状況の安定だけでなく、利用者が自己実現に向け目標を持って生活するため、日中活動に力を入れており、製袋作業を活動の中心に据えつつ、作業参加が困難な利用者に対しては趣味的活動「ひまわり」を週2回実施している。ボランティアの協力を得ることで多様なプログラムの提供につながっており、作業を行うことが難しい利用者だけでなく、作業の休み時間に参加する利用者も増えるなど、日中活動全体の充実が図られている。
3	タイトル	循環型施設の役割を担うべく、退所後のアフターケア担当部署とも連携を図りながら地域への移行支援を行っている
	内容	利用者が地域生活を希望した場合は、個別支援計画に基づいた施設内での自立した生活を目標としたのち、訓練棟にある生活実習室での訓練を経て、法人が借り上げている民間アパートを利用した疑似的な居宅生活の体験訓練へと段階的に移行している。退所後も安定した地域生活を継続できるよう、相談、通所・訪問、一時入所事業によるアフターケアの仕組みも整備されており、訓練候補者の選定や訓練対象者のモニタリング等は、施設の地域生活移行支援担当職員と各事業担当者とは連携を図りながら進めている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	マニュアルに沿った服薬支援が行われているが、より安心・安全に行えるよう職種の壁を越えた検討の機会が設定されることを期待する
	内容	利用者の自立に向け、心身の健康維持は欠かすことのできない支援であり、看護師は嘱託医と連携して健康管理に努め、専門医療機関への受診支援も積極的に行っている。定員100名の施設において通院先は多岐にわたり、昨年度の科別通院状況の合計は3000を超える状況となっており、看護師2名による服薬セット業務は煩雑を極めている。服薬に関するマニュアルは整備され、リスクを分析する機会も設定されているが、さらなる安心・安全な服薬支援の環境設定に向け、調剤薬局の活用、ダブルチェックの実施等の検討が行われることを期待したい。
2	タイトル	虐待防止に向けた各種取り組みを進めているが、今後は実践的内容を含む研修を充実させていくことが期待される
	内容	虐待が疑われるグレーの対応についての動画作成、施設独自の「虐待防止と人権保護自己評価チェックリスト」の分析、各フロアでのサービスマナーに関する定期的なミーティングの実施、利用者が作成した虐待防止ポスターの掲示など、多方面から虐待防止に向けた注意喚起を図っている。一方、私語や言葉遣いなど課題を感じている面もあり、今後は、虐待防止研修に加え、アンガーマネジメントや接遇マナーなど、実践的な内容を含む研修を充実させ、対人援助スキル向上に取り組むことが期待される。
3	タイトル	職員のメンタル面でのケアや会議運営等に「モヤモヤ、不安、イライラ、ヒアリングシート」の更なる活用が期待される
	内容	精神的疲労が蓄積し、体調やメンタルを崩す職員が増えており、今年度から「モヤモヤ、不安、イライラ、ヒアリングシート」という独自の書式に職員が自由に記述できる環境を整えた。内容によって施設長が面談を行い、悩んでいることなど早期に把握することで、メンタル面でのケアや虐待防止につなげていくとしている。また、多数の職員が参加する会議では意見が出せない職員もおり、部署ごとに話を聞く機会を設けるなど工夫をしているが、モヤモヤシート等を上手く活用することで、職員の意向を吸い上げ、会議運営に反映させていくことに期待したい。

No. 特に良いと思う点		
1	タイトル	ボランティア・学生との連携や多彩な行事参加を通じた透明性の確保と地域の人々との交流は利用者の生活の質向上につながっている
	内容	法人全体で地域交流や貢献活動に力を入れており、地域におけるさまざまなネットワークが構築されている。施設ではクラブ活動の講師、行事やカラオケ、理・美容等、多くのボランティアが活躍し利用者の生活を支えると同時に、見学や体験を目的とした学生の来所も多く、透明性の確保につながっている。また、ふれあいコンサートや市民文化祭、ゲートボール大会等各種イベントへの参加の他、地域の子ども向けに法人全体で開催しているコドモナツツツリや地域清掃活動には、ボランティアと共に利用者も参加するなど、多様な人々との交流につながっている。
2	タイトル	施設内で提供しているメニューは食を楽しむための工夫が凝らされていることに加え、法人全体の取り組みも満足度向上に繋がっている
	内容	季節や行事に合わせた献立、選択食、調理員が献立を考案する「さつきグルメ」、当日までメニューを伏せておく「シークレットランチ」、利用者・職員が協力して調理を行う「お楽しみ食事会」等、食事内容は大変バラエティーに富んだものとなっている。また、サービス向上のため職員が法人内他施設を巡回する「いいねおいしいね見学会」では、食事内容も検証項目としている他、地域への「お昼ご飯お届け事業」では子育て世帯等、若年層も意識した献立作りとなるようにしており、食の満足度を向上するための取り組みが多数行われている。
3	タイトル	災害時の一斉送信システムを平常時にも活用し、職員間の情報共有体制の強化に取り組んでいる
	内容	職員間の情報共有のツールとして、「災害時の一斉送信システム」を活用している。このシステムは、震度4以上の地震発生時に一斉送信され、職員の安否確認ができるしくみとなっている。しかしながら、日常的に使用していないと緊急時に対応できない可能性があると考え、感染症発症時の連絡や勤務表の配信など、平常時から活用するよう工夫している。システムは、アプリとメールの両方で受信可能であり、職員の状況に応じて選択でき、個人携帯でも閲覧できるようになっている。また、日々の情報は支援ソフトを通じて共有している。
No. さらなる改善が望まれる点		
1	タイトル	次世代リーダーの育成と組織の活性化に向けて、職員の異動や配置を検討することが必要となっている
	内容	職員の年齢層が偏っており、次世代を担うリーダー層の確保と育成が組織運営上の重要な課題となっている。採用や配属は法人が主管しており、施設単独での年齢構成の是正が困難な側面があるが、組織の活性化を目指して管理職の異動や若手職員を対象とした副主任ポストの配置が検討されている。キャリアパスを再考し、昇格に伴って段階的に責任ある業務を担えるような仕組みを構築することで、若手から中堅職員が将来の展望を持って職務に邁進できるよう、活力ある職場環境の整備につなげることに期待したい。
2	タイトル	フローチャートで業務手順を明示するなど、日常的に活用しやすい内容に更新することが望まれる
	内容	施設には多くのマニュアルが整備されているが、法人のマニュアルと施設の業務マニュアルを合わせると膨大な量となっている。マニュアルはファイルに保管され、パソコン上のデータでも閲覧可能となっている。ファイルの1ページ目には目次もあるが、必要なマニュアルを活用しにくい状況が見受けられる。また、職員の定着率が高くベテラン職員が多いため、経験に基づいた支援が中心となり、マニュアルを確認しながら業務を行う場が少ない傾向にある。今後は、フローチャートなどを用いて、より活用しやすい内容への更新が望まれる。
3	タイトル	マニュアルに沿った服薬支援が行われているが、より安心・安全に行えるようさらなる取り組みを期待したい
	内容	心身の健康維持は欠かすことのできない支援であり、看護師、嘱託医が連携して健康管理に努め、専門医療機関への受診支援も積極的に行っている。通院先は多岐にわたり、ほとんどのケースで何らかの服薬支援を要しているが、服薬の自己管理に向け、段階的に自立支援を進めていく中においては、飲み忘れや落葉等を避けるために状況にある。服薬に関するマニュアルは整備され、リスクを分析する機会も設定されているが、さらなる安心・安全な服薬支援の環境が設定されることを期待したい。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	虐待防止委員会に利用者も参画することで、利用者からの視点や意見を参考にして、虐待への意識を深めている
	内容	虐待防止委員会・身体拘束適正化委員会には、利用者及び地域関係者も参画しており、「虐待をしない・させない・見逃さない・虐待は犯罪」意識を深めているほか、「虐待案件に関する情報共有や虐待研修」などに参加している。利用者が委員に加わることで、利用者からの視点の報告や意見を共有することができ、職員がより深く理解する機会となっている。また、ホームページに利用者や家族、近隣の方からの苦情の内容等及び経過・解決策等が公表されており、事業所は苦情からの気づきを基に、継続してサービスの質の向上に取り組んでいる。
2	タイトル	多様な作業選択肢により利用者の特性や得意分野を活かした個別支援や、一人ひとりの要望に応じた柔軟な支援を実践している
	内容	作業の種類の豊富さと利用者一人ひとりに合わせた支援の充実により、個別性を重視した取り組みを展開している。具体的には、就労移行支援では清掃作業やPC作業、就労継続支援B型では箱折りや道具を使った作業など、多様な作業選択肢を提供している。これにより利用者の特性や能力に応じた作業選択が可能となり、各自の得意分野を活かした支援を実現している。工賃を稼ぎたい利用者には収益性の高い作業を、居場所づくりを求める利用者には無理のないペースでの作業を提案するなど、個々のニーズに対応した柔軟な支援体制を構築している。
3	タイトル	高工賃を維持しながらも、さらなる工賃アップに向け積極的な営業活動を展開し、新規受注先の開拓を実現している
	内容	従来の受注量減少や単価の良い作業の減少により売上が伸び悩む厳しい状況の中でも、新たな受注先確保のため多角的な営業活動を実施している。具体的には、新聞広告を情報源として企業を調査し、飛び込み営業を行うことで新規受注先の開拓を進めている。また、東京都の応援センターに登録し、マッチング機会の拡大を図っている。マッチング成立は容易ではないものの、近隣企業からの受注獲得に成功するなど、地道な営業努力により受注先の拡大を実現し、工賃アップに向けた取り組みを積極的に展開している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	個人情報保護や障害特性を理解したうえで利用者向き姿勢を持つよう施設長は日頃から伝達しており、その成果に期待する
	内容	知的や身体に障害がある利用者が多いが、近年では精神に障害がある利用者が増えている。障害の多様化に伴い、それぞれの障害特性を理解することが一層求められるなか、個人情報保護に関する認識を高める必要も高くなっている。例えば廊下など開かれた場所で、職員同士が特定の利用者の話をするのが他の利用者に不安や誤解を与えかねないという視点から、施設長は日頃から注意を払うよう伝えているが、利用者が安心して働ける場所を提供するためにも継続して伝達することが求められている。
2	タイトル	個別支援計画の目標の達成基準や評価の判断根拠が分かりにくい状況があるため、評価した基準・経緯を示すための工夫が期待される
	内容	個別支援計画については、利用者の意向を基にサービス検討会議で話し合いを行い作成している。モニタリングや工賃能力評価なども職員間で十分に検討して決定しており、職員同士の情報共有や利用者の個別支援計画に対する理解も高い水準にある。一方で、目標の達成基準や評価の判断根拠が分かりにくい状況がある。今後は、評価しやすい目標設定や、評価した基準・経緯を示すための工夫とともに、計画作成からモニタリング、次年度計画への一連の流れが分かりやすくなる包括的な仕組みの構築が求められる。
3	タイトル	事業所の様子や特徴をより詳しく伝え、利用者獲得に活用するために事業所としてのSNSの発信を具体化するための話し合いに期待したい
	内容	ホームページには、東村山市自立支援協議会就労支援が主体となって作成した事業所の紹介動画が掲載されており、再生回数が1万回以上と伸びているが、更新回数が少なく、利用者獲得や作業の受注に繋げるためには企業のようなインパクトのある内容に変更できたら良いと考えている。また、SNSについては、法人の広報委員会が中心となって動画配信を行っているが、事業所の様子や特徴をリアルタイムで伝えるために事業所としての発信を希望しているため、事業所内や法人との間で具体化するための話し合いに期待したい。

No.		特に良いと思う点	
1	タイトル	「その人らしさの尊重」の基本理念のもと、入居者の笑顔や「こうしたい」を引き出し、生活習慣等の継続性に配慮した支援をすすめている	
	内容	施設は、入居者が大切にしてきた生活習慣や趣味などについて継続の希望が寄せられた時には、前例がないことでも「どうしたら叶えられるか」という姿勢で受け止め、安全性や衛生面等に支障ない限りはできるように環境を整えている。入居者の生活の場を「こうあるべきだ」と決めすぎて施設のルールを押し付けるのではなく、楽しい雰囲気の中から「こうしたい」という思いを引き出す支援を心がけている。一人ひとりの心に寄り添いその人らしさを尊重することを基本理念とし、ともに優しく生きる場(施設)づくり、笑顔のある暮らしの実現を目指している。	
2	タイトル	ケアの質向上委員会、生産性向上推進委員会などの組織的な活動で、介護サービスの向上と業務改善に取り組んでいる	
	内容	昨年度、新たな組織としてケアの質向上委員会、生産性向上推進委員会を立ち上げた。委員会の検討内容は、個浴槽の導入、排せつ用品の見直し、家族からの要望への対応、サービス提供ルールの検討・確認など多岐にわたっている。科学的介護情報システム(LIFE)のフィードバックでは、身体機能の低下した入居者を抽出して支援に役立てるといふ、一歩進んだ取組みも行っている。職員の困りごとの検討や個々の入居者のADLの推移なども議題としており、施設の課題を集中して検討して現場に反映することで、サービス向上と業務改善につながっている。	
3	タイトル	戦略的な計画と適切な指標の設定、そして緻密な進捗管理。その結果、計画を「絵に描いた餅」にせず着実な成果につなげている	
	内容	法人の中期計画では、事業種別や施設別にも中期目標を定め、高齢者事業では、「経営基盤の強化」などの目標を掲げ各事業所に経営改善を求めている。施設では、事業計画の中で稼働率や経費削減率などKPI(重要な指標)を設定して毎月の運営会議等で進捗管理を励行している。また、中間期には事業計画全体の総括検証を実施し、未達項目については改善策を講じている。その結果、順調に経営指標の改善が進み、目標を着実に達成しつつある。適切な指標の設定と緻密な進捗管理により計画を「絵に描いた餅」にせず着実な成果につなげている。	
No.		さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	入居者の生活の幅を広げ、「笑顔のある暮らし」を実現するために、外出機会の増加やレクリエーションの充実に取り組むことを期待したい	
	内容	コロナ禍でさまざまな行事やレクリエーションを中止・縮小していたが、感染状況に配慮しつつ徐々に活動を再開している。今年度は第2ハトホームと合同で夏祭りを開催し、ボランティアも参加して出店や花火大会で入居者に楽しいひとときを提供した。各フロアでも小規模なレクリエーションを工夫しながら実施しており、家族の面会時や高齢者作品展の鑑賞のための外出の機会もつくっている。今後、さらに入居者の生活の幅を広げるために、ボランティア受け入れの拡大や地域に外出する機会の増加、レクリエーションの充実を図ることを期待したい。	
2	タイトル	各種支援計画のPDCAサイクルは確立されているが、ケアプランに基づく多職種連携による支援をさらに前に進めることを期待したい	
	内容	入居者のケアプランや各種支援計画について、システムを活用して各職種がアセスメントを分担し、計画作成(PLAN)・実行(DO)・モニタリング(CHECK)・プラン更新(ACTION)のサイクルを回す一定の仕組みは確立している。ただ、訪問調査では、介護・リハビリ・看護等の各職種の支援がケアプランに基づく支援となっているかどうかという点には課題が見受けられた。事業計画の重点課題には「ケアプランの理解促進」を掲げており、多職種連携によるケアの充実に向けて、サービス担当者会議の強化など、より一層の取り組みが望まれる。	
3	タイトル	事業継続計画に沿った机上訓練や勉強会実施などを繰り返し、有事の際に職員が担うべき役割のさらなる理解促進を期待したい	
	内容	施設では、大規模自然災害と新型コロナウイルス感染症発生時を想定した業務継続計画(BCP)を作成済みで、災害時のBCPは、主に多摩直下型地震(震度6強規模)を想定し入居者や職員の安全確保やその後の事業継続について周知している。職員調査でも、リスクに対する対策やBCPの理解について比較的高い評価を示しており、震災訓練でも、初動対応や安否確認訓練などを実施して有事に備えている。今後も引き続き、事業継続計画に沿った机上訓練や勉強会などを繰り返し、有事の際に職員が担うべき役割のさらなる理解促進を期待したい。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	広々としたフロアの中央にスタッフルームが配置され、入居者の安全と職員の動きやすさを両立させた環境を整えている
	内容	入居者のフロアは大きく二つに分かれ、それぞれのブロックの中央にスタッフルームが配置されており、常に職員の目が行き届く安心の環境を整えている。広々としたゆとりある空間は、車いすの入居者の自由で安全な移動を支えるだけでなく、職員が異変に即座に駆け付ける迅速な対応も可能にしている。また、状況に応じてフロアの中央で2つに仕切ることができるほか、さらに細かく区切ることも可能であり、感染症発生時には生活空間を分けた適切なケアができる工夫がされている。入居者の安全な暮らしと職員の動きやすさを両立した環境と言える。
2	タイトル	風通しが良く働きやすい職場環境のもと、多職種の連携とチームワークで行事・レクリエーションなど入居者に楽しみの機会を提供している
	内容	施設では、活発なコミュニケーションと風通しの良い職場環境を基盤に、質の高いサービスを提供している。管理職、ケアマネジャーや相談員は積極的に介護現場に足を運び、看護・介護職員も密に情報共有するなど多職種の連携も良い。人員配置に制約がある中でも、チームワークを生かしてフロアごとのレクリエーションや運動会・敬老会などを実施し、入居者の楽しさを追求している。東京都の「TOKYO働きやすい福祉の職場宣言」全17項目を達成している良好な職場環境のもと、職員の協力体制で入居者の支援に取り組んでいる。
3	タイトル	アンケートに基づく実践の振り返りや現場の課題の研究を通じて、不適切ケアの防止とサービスの質向上に努めている
	内容	施設では、オンラインを活用して不適切ケアに関するアンケートを毎月実施しており、その結果を共有して職員個々の考え方の違いを学びながら、自身の実践を振り返る機会としている。特に、無意識の虐待や威圧的な言動を防止するため、具体例をあげながら理解を深めている。また、特養2施設で毎年実施する「福祉サービス研究研修」では、今年度は「虐待根絶」をテーマに、職員が現場で直面する課題を取り上げて研究発表を行った。単なる知識の習得にとどまらず、アンケートに基づく意見交換や研究に取り組むことで、サービスの質的向上につなげている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	業務に必要な多種多様の手引書を「総合マニュアル」として整備しているが、使いやすさの面から整理や活用のあり方の検討が期待される
	内容	施設では、施設運営から介護方法まで業務に必要な多種多様な項目を全般にわたってまとめた「総合マニュアル」と呼ばれる手引書を整備している。年1回は、運営会議や各委員会で内容を点検し、見直しも行っている。総合マニュアルはグループウェアの共有フォルダからいつでも閲覧することができ、日々の支援に必要なマニュアルの一部は紙ベースにしてスタッフルームに配置している。研修資料などもマニュアルとして整理されている。ただ、マニュアルが膨大になっていることもあり、使いやすさからみると課題もみられる。整理や活用の検討が期待される。
2	タイトル	個人別研修計画やメンター制度のしくみをより一層充実させることにより、さらに人材育成・定着の推進を図ることを期待したい
	内容	施設は、法人が定めたキャリアパス制度とそれに連動する人事評価制度を運用して、人材育成を進めている。昨年度は、「研修計画に基づく研修体制の充実化」を運営方針の重点目標に掲げて取り組みを進め、職員調査での研修体制についての評価は大幅に向上している。なお、個人別研修計画は職員面談での希望に応じて作成しているが、長期的な人材育成という視点からはさらなる充実が求められる。また、メンター制度についても直ちに改善が必要という状況ではないものの、職員の新たな採用に備え、指導・評価のしくみの確立にむけた検討が期待される。
3	タイトル	事業継続計画に沿った訓練や研修などを継続的に実施して、計画の実効性をさらに高めることを期待したい
	内容	施設では、大規模自然災害と新型コロナウイルス感染症発生を想定した事業継続計画(BCP)をそれぞれ作成している。災害時のBCPでは、主に多摩直下型地震(震度6強規模)を想定し、入居者・職員の安全確保や職員の役割分担などの対応策を定めて、職員・関係者に周知している。職員調査からも、BCPに対する周知の取り組みや理解度が向上していることが確認できた。震災訓練では安否確認訓練などを実施して有事に備えている。今後も引き続き、事業継続計画に沿った訓練や研修などを実施して、さらに実効性を高めることを期待したい。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	シナプソロジー等による認知機能維持・改善に取り組み、主体性を尊重する活動を通じて、重度化を 防ぎ、住み慣れた暮らしを支えている
	内容	比較的要介護度が軽い利用者が多く通所する事業所は、地域高齢者の認知機能の維持と改善に力を入れ、 プログラムの中に「シナプソロジー（認知機能低下予防プログラム）」や、計算などの脳トレを導入し、脳の活性化 につなげている。また、クラブ活動の内容や連絡帳の記入など、事業所内の活動は利用者の自分で決めて、 自分で行うという主体性の尊重を徹底し、利用者は皆、自由にイキイキと活動している。市内の高齢者のみま たは単身世帯は増加傾向にあり、その重度化防止が急務である。高齢者の地域拠点として、住み慣れた地域 での暮らしを支えていく。
2	タイトル	保育園と通所介護等が併設する幼老複合施設の利点を活かした異世代交流が、利用者の心と体 の活性と笑顔につながっている
	内容	事業所のある「ほんちようケアセンター」は、介護保険サービス事業と保育園が併設する幼老複合施設である。 コロナ禍を経て感染症防止対策を講じながら、利用者と園児の交流を再開している。敬老お祝い週間では園児 が手作りカードと祝い菓子を贈呈、園児による歌や太鼓の演奏も披露され、会場は多くの笑顔に包まれた。ま た毎月の誕生会や園児の散歩時にガラス越しで手を振り合い挨拶するなど、日常的に顔を合わせる機会是多 い。園児との交流は利用者の心身を活性化しその効果は計り知れず、今後も事業所の特色の一つとして異世 代交流に取り組んでいく。
3	タイトル	多様なサービスを提供している法人の中で、支援の必要な高齢者の「安心感のある入り口」としてそ の人らしい尊厳のある生き方を支えている
	内容	事業所は、「利用者に合わせて役割を担ってもらい、その人らしい在宅生活の継続を支援する」というビジョンを 掲げている。そこには、自ら動くことで自信と意欲を取り戻してほしいという願いが込められている。利用者アン ケートでは9割以上が「満足」と回答。この尊厳ある支援は、状態が重度化した際にも「次もこの法人を選びた い」と思わせる強い信頼を感じさせる。これにより、事業所は法人内の多様な高齢者サービスにおける「安心感 のある入り口」としての役割を十分に果たし、法人全体の利用へと繋げる重要な起点になっていると大いに評 価できる。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	一貫した情報共有で質の高いケアと利用者への安心提供に努めているが、伝達・連絡・報告もれ防 止に向けたさらなる仕組みづくりに期待する
	内容	利用者や家族から送迎時や連絡帳を通じて得た情報は、迅速に朝・夕礼時に現場職員と送迎専門職員で共有 し、利用中の様子や送迎時の気づきがあれば、随時共有し話し合う体制を構築している。介護ソフト上のケア 記録等も活用し、送迎時に得た情報は直ちに事務所へ報告するなど、一貫した情報共有で質の高いケアと利 用者に向けた安心の提供に努めている。職員調査では「伝達・連絡・報告のミスをなくしたい」といった自由意見 もあり、送迎あり毎日通所者が違うなど、臨機応変な対応が求められる通所介護の特性を合った報連相の仕組 みづくりに期待したい。
2	タイトル	法人全体で業務効率化に取り組んでおり、人員不足に対応するとともに、職員との面談や研修の時 間を創出するさらなる取り組みに期待したい
	内容	法人全体で業務の効率化に取り組んでおり、事業所でも介護ソフトの導入によるペーパーレス化や情報共有が 進んでいる。しかし、人員不足は特に介護業界全体で深刻であり、当該事業所も例外ではない。職員アンケー トでも「もう少し余裕のある業務体制を考えていきたい」という前向きな意見もみられた。これには、単なるIT化に とどまらない業務体制そのものの変革が必要であり、現在も法人をあげてこの課題に取り組んでいる。事業所 も外部研修への参加の機会や、職員面談の時間を増やしたいと前向きに考えており、さらなる取り組みの深化 が期待できる。
3	タイトル	利用者が家族と触れ合える行事を企画するなどの工夫がみられるが、引き続き家族とのつながりを 意識した事業所運営に期待したい
	内容	事業所では、併設する保育園児との交流やそれぞれの意向を取り入れたレクリエーション活動などを行って いる。しかし、デイサービスという特性上、利用者と家族が交流する場は少ないのが現状である。その中でも、家 族も参加できる「うどん作り」という行事を企画したが、現時点では家族参加は少数に留まっている。コロナのた め行事そのものを縮小した影響も残る中、粘り強く家族との交流の機会を増やすことが望まれる。家族が参加 しやすい行事などを企画や、アピールの方法を工夫するなど、引き続き家族とのつながりを意識した事業所運 営に期待したい。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	保育の一環として、子どもたちが自ら考え参加する行事は、その意欲を大切に、子どもたちの「つながり」を大事に楽しむ行事を企画している
	内容	行事の取り組みは保育の一環として子どもたちが自ら考えて参加する事を主とし、その意欲を大切に、目的を持ち、楽しむ行事を企画している。保護者参加の園行事は参加しやすく、また、子どもと一緒に楽しいひと時を過ごす大切な時間となる配慮をしている。運動会は子どもたちの「つながり」を大事に0歳児クラスから参加し全園児(195名)で楽しんでいる。4歳児の仲間関係を深める園舎内「お泊まり保育」から、5歳児の自然に直接触れ、野外活動を体験する「お泊まり保育」へと保育が「つながり」、集団で取り組む楽しい思い出と共に絆も深めている。
2	タイトル	人事評価制度の導入をきっかけとして、保育の質向上に向けたキャリア・スキルアップ及びチームワークへの認識が高まっている
	内容	今年度より法人の方針として、人事評価制度を導入し、職員に人事評価制度について丁寧に疑問に答え、説明を行い取り組みを開始している。人事評価制度の一環として行われる職員との個人面談では事前に配付した法人のキャリアパス表を基に、各自の目標だけでなく、組織として期待すること、本人のキャリアパスの中で今後どのようにスキルアップ・キャリアアップしていくかという点も含めてアドバイスをしている。これらの取り組みを通じて、職員調査結果では、職員のキャリア・スキルアップやチームワークに対する認識が向上していることが認められる。
3	タイトル	実習生やボランティア受け入れ、情報公開、各種講座など、地域に開かれた運営を行い、次世代の育成や地域の子育てに貢献している
	内容	「地域に根差した子育ての発信基地となること」を理念に掲げ、同理念の下、園内に地域支援一時保育委員会を設け、実習生・ボランティア・職場体験を積極的に受け入れ、次世代育成を図っている。園のホームページや地域へのおたよりなどで、園庭開放や離乳食体験、保育体験、子育て相談、一時預かり保育などのイベントや講習会の開催、サービスを周知している。また、SNSやブログ等各種資料の公開を通じて、地域に子育て情報を提供する拠点としての役割を果たしている。このように、豊富で多彩な地域支援のメニューを通じて地域支援を実践している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	サービス基本事項を含め、マニュアル一覧表には作成日が書かれているのでそれを参考にマニュアルの改訂や整理を進められたい
	内容	保護者対応などのサービス基本事項を含め、マニュアルの改訂は各クラスで検討後、リスクマネジメント委員会へ提案している。保育の職務心得として提供する園のサービス手順、各保育業務場面のマニュアルは虐待防止、危機管理、安全管理、その他の項目ごとにそれぞれ関連するマニュアルを一覧表にしている。園としてリスクマネジメント委員会が保育園に関わるすべてのリスクを検討しているが安全衛生委員会とも連携されたい。マニュアル一覧表には作成日が書かれているのでそれを参考に現在の保育業務に合わせる改訂や改訂日の記載を進められたい。
2	タイトル	将来の園運営における中核的な役割を果たす後継人材の育成に体系的に取り組まれたい
	内容	将来の園運営を見据え、次世代のリーダー層の育成も踏まえた職員配置を行い、今年度からは委員会等の運営業務に副主任やリーダーを中心に据えながら中堅職員の育成を図っている。園は職員が生き生きとして働く、風通しの良い職場づくりのためにはボトムアップ型の組織が望ましいと考え、園内のチーム力の強化を重要視している。このような構想を実現するため、職員集団を率いていく人材のマネジメント能力、スーパーバイズ能力の向上の優先度は高いと考えられる。OJTや研修、自己開発システム等を組み合わせながら後継人材の育成に取り組みたい。
3	タイトル	業務負担を減らし、より働きやすい職場とするためにICTのさらなる活用に期待したい
	内容	昨年度、6台のPCを購入し、正職員すべてが個々にPCを利用できる環境となっている。今年度からICTシステムの活用を加速化し、児童票が紙面からデータに変更され、今後もカレンダーやチャットなどを業務上の活用を検討している。日々の保育では休憩の取得に努めているが、ICTのさらなる活用を通じて職員個々の業務負担を減らし、より働きやすい職場づくりに継続して取り組まれたい。業務負担が減ることにより、さらなるゆとりが生まれ、職員の定着や保育サービスの向上に良い効果もたらされることに期待したい。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	理念に沿った多彩な在宅子育て支援の開催内容を計画し、園の広報紙「ふじみのひろば」を活用して地域の子育て家庭へ情報発信している
	内容	地域密着の保育園、地域に愛される保育園を目指し、実習生やボランティアを受け入れ、次世代育成や世代間交流を行っている。園の広報紙「ふじみのひろば」は園舎前の掲示板への掲示や市役所、関係する施設へ配布している。地域子育て支援係は地域の子育て家庭へ向け、保育所体験・乳児体験・園庭開放・ぴよぴよ体験を企画して、実施日や内容を紹介し、保育環境の見学や育児を楽しむ機会を提供し、好評を得ている。在宅子育て支援の拠点として園の特徴を活かして積極的に取り組んでいる。今後も在宅子育て支援事業の更なる展開を期待したい。
2	タイトル	保育の一環としての行事は楽しみながら頑張れた・楽しかったの体験と自主性を育み、成長にあわせた憧れの気持ちを育む行事を実施している
	内容	行事が特別な日ではなく保育の一環として子どもたちの意欲を大切に、目的を持ち計画的に企画している。5歳児の運動会やお泊り保育等は子どもたちの発想に寄り添い、発言する言葉を受け入れ、頑張れた・楽しかったの体験と同時に自主性を育み、4歳児のお楽しみ保育ではデイキャンプを楽しんでいる。乳児クラスは運動会ではなく健康体育の講師と一緒に乳児期に親子で遊べるスキンシップ遊びを楽しんでいる。和太鼓は0歳児後半から手作りの太鼓で遊び、5歳児では本物の和太鼓で演奏を披露する等成長にあわせ、憧れの気持ちを育む行事を実施している。
3	タイトル	職員一人ひとりの主体性を尊重する方針が保育者の自律的な実践を支え、子どもが主体的に関わる保育の実現につながっている
	内容	経営層は保育の現場をよく見て回り、利用者や職員の声をよく聴いており、職員個々の主体性を尊重し、一步引いて見守りながら言うべきことは言うように心掛けている。この結果、職場には抑圧的な雰囲気はなく、職員からは意見を出しやすい、相談しやすい職場であると報告されている。クラス目標もクラスごとに作成され、研修も個々に希望を出し、主体的に参加する方式が採用されている。このように職員が主体的に働きやすい職場作りが推進されており、職員の主体性を尊重する方針が子どもの主体性を尊重する保育の実践として反映されている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	季節を感じる郷土料理や行事食を自園調理で提供しているが園としては味覚や食への幅が更に広がる給食メニューの充実を目指している
	内容	季節を感じる旬の食材の味を活かし、日本の伝統的な郷土料理や行事食を自園調理で提供している。また、年齢ごとに子どもの姿に合わせ、様々な形で食に関わる体験をする食育活動に取り組んでいる。毎月の献立会議では園長はじめ関係する職員で献立内容について討議している。園としては多文化理解に向けた様々な味覚体験ができるよう国内外の特産物を取り入れた郷土料理や外国の食文化を知り、味覚や食への幅が広がる給食メニューの充実を目指している。子どもたちがこの味は、どこの国、と思える食の多文化理解に向けて職員共々で深められたい。
2	タイトル	ドキュメンテーション写真の撮影方向、構図、貼付用写真の選び方、並べ方を検討し更に活動の見える化に取り組まれたい
	内容	毎日の保育活動を知らせるおたより帳は0～2歳児までは記載して配信している。3歳児以上は連絡事項がある時のみとしている。活動を知らせる「今日の出来事」は各クラスの保育活動の見える化につながるドキュメンテーションを毎日配信し、掲示板にも掲示する等、効果的な活用をしている。降園時の保護者にはわが子が友達同士で関わり合う風景や遊ぶ姿の見える化は安心につながっている。写真撮影方向や構図、貼付写真の選び方、並べ方を検討され、更に、保護者の気持ちを和ませるドキュメンテーション作成を期待したい。
3	タイトル	マネジメントに対する全職員の意識の向上を図るとともに、的確な情報共有を通じて、一層のサービスの標準化と質の向上が期待される
	内容	職員調査の結果、保育に対しては職員各自が高い意識を持って目標達成に向けて取り組んでいるが、マネジメントに関しては、無回答が多くを占める項目もあった。現地を確認した結果、会議で経営層より情報共有促進の声がけはされており、ノートや掲示などのツールも効果的に使われていた。これらから職員の組織マネジメント分野における関心や意識が十分ではない結果、無回答が多くなるのではと察せられる。サービスを生み出す仕組みを持つマネジメントにおいても、全職員が意識的に情報を取得することによるサービスの標準化、質の改善に期待したい。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	日々の保育の中で健康体育や保健指導を体験し、身体の使い方、園生活を健康で過ごす術を学び、安全への意識を高められるよう指導している
	内容	園では、子どもが楽しく元気に園生活を送る中で、自らの健康を守る知識や習慣、態度を身につけ、すすんで取り組む意欲を育むことを大切にしている。子どもに対する保健指導は、年間指導計画にてクラスごとに計画しているが、子どもの姿を観察して看護師に内容を相談、現状を把握し内容の変更も視野に入れて実施している。2歳児クラスから開始している健康体育の指導内容を日々の保育に取り入れ、継続して行うことで、子どもが四肢の使い方、バランス感覚などを身に付け、しなやかで転倒しない身体づくりの一役を担い、大きな成果を得ている。
2	タイトル	保護者に向け、子どもの学びへの姿勢や保育者の目指す子どもの姿を、園だよりクラスだよりなどで可視化して発信し理解と信頼を得ている
	内容	日々の子どもの姿や行事に向けた取り組みについて、保育者が意図すること、計画作成に当たりねらいや目的について、園だよりやクラスだよりなどに明確に示して、保護者に分かりやすく発信している。運動会や生活発表会などの行事に向けては、ビジョンを達成するために子ども間での話し合いの機会を持ち、保護者に、良くできたなどの結果に拘らず、準備段階で経験を重ねて子どもが成長する姿を見守り、子どもの気持ちに共感しながら職員と共に子どもの成長を喜べるよう働きかけている。保護者への丁寧な説明により、保護者の信頼へとつながっている。
3	タイトル	法人の基本使命に基づき、中期計画の一環として各種のプログラムを通じた子育て支援や相談等地域に積極的に貢献している
	内容	法人の基本使命として地域に根差した福祉活動の実践が掲げられており、園の中期計画にも地域支援が位置づけられている。このような背景の下、地域向けに一時保育、子育てひろば等事業を実施し、看護師、栄養士による健康・栄養相談やベビーマッサージ、健康体操、小物づくり等いろいろなイベントを企画し、地域の子育て家庭同士がつながる場としている。近所の公園では毎月出前保育を行い紙芝居、大型絵本等で地域の子どもに楽しみとつながりを提供している。活動の中で母の子育ての悩みを聞き取り、アドバイスを行うなど地域の子育てを支援している。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	ヒヤリハット報告書の収集を増やすべく、職員の意識の向上を図り、更なる安全な保育への協働作業に取り組まれることを提案したい
	内容	園では、半期・年度末にはヒヤリハット報告書の分析を行っている。記載内容に関しても、記入方法を簡素化し負担軽減を図ることで職員の気づきからの積極的な提出を促し、今年度においては、昨年度に比べ提出が増加している。けがにつながる直前の事柄が記載されているが、予め危険を察知して、保育者の配慮や子どもへの言葉がけにより、起こる寸前で回避できた内容なども記載していくことも提案したい。非常勤職員や調理に携わる職員も含め、日常の中でアンテナを張り、些細なことでも職員間で共有、共通認識を持って取り組まれることを期待したい。
2	タイトル	保育の標準化及び質の向上のため、非常勤職員へのより丁寧な説明やツールの活用を通じた情報共有の強化が望まれる
	内容	職員調査の結果、計画策定と実施、人材育成、組織力の向上、標準化等の項目で非常勤職員の無回答が多くなっており、情報共有のあり方に課題があると見受けられる。非常勤は職員全体の半数近くを占め、当園の保育を支える重要な役割を担っている。現状、非常勤職員に対する個別面談の機会や部分的な会議への参加、非常勤職員だけを対象とした会議の開催などの会議への参加機会は確保されているが、保育の標準化及び質の向上のためにはさらなる非常勤職員へのより丁寧な説明やツールの活用を通じた情報共有の強化が望まれる。
3	タイトル	理念、中期計画、単年度計画の連結性を強化し事業の運営効率を高めたい
	内容	当園では、保育理念や保育に係る全体的な計画等は策定されているが、園としての事業理念は未策定となっている。事業理念を基に、中期計画及び単年度計画が策定されることが望ましい。今後の事業理念の策定に期待したい。また、園として中期計画と事業計画が策定されているが、両計画の論理的な整合性が必ずしも十分ではないため、来年度、中期計画の改訂のタイミングで事業計画との連結性強化の観点から見直されることが望まれる。理念、中期計画、単年度計画の論理的な整合性の強化が図られることにより運営効率が一段と高まる効果が期待される。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	子どもの主体性を大切にした保育の実施に向けて、乳幼児期の育ちを大切に考え、職員間で共通認識を持って取り組んでいる
	内容	乳児期から子どもの表情を読み取り気持ちを代弁する、言葉の表出が始まった年齢の子どもには、根気よく意思を確認するなどして、子どもの気持ちを大切にした愛着形成に努めている。日々の保育や行事に関わる計画において、保育者は、子ども同士の会話の中からやりたい気持ちを引き出し、提案したことを最後までやり遂げる大切さも経験させて、自ら成長していく力を発揮できるように援助している。行事や散歩などの一斉保育に参加したくない子どもの気持ちも認め、子どもが自らやりたくなることを待ち、模索して寄り添った対応を心がけている。
2	タイトル	保育士、看護師、栄養士が協働して、園生活の中で身に付けて行きたい生活習慣の確立や多様性の理解に向けた指導を計画的に実施している
	内容	子どもを中心にした保育の中で、さまざまな経験を通して将来への基礎となる生活習慣や多文化理解、自らの身を守る術などを学び、楽しみながら知識を蓄え実践を通して学びを深めていけるように、リスク、食育などの委員を決め、保育士、看護師、栄養士が専門性を活かし協働して取り組んでいる。職員や子どもが提案した内容を子どもの生活に反映させるにはどのような方法が効果的かなどを検討し実行している。子どもも見学するプールでの事故発生のシミュレーションでは、職員の対処する姿を見て学び、危険予知訓練の役目も果たす機会も大切にしている。
3	タイトル	チェックリストの活用や研修での学びを通じ、職員間の相互理解を促進し、不適切保育の防止を徹底している
	内容	虐待の根絶を掲げる法人の方針の下、当園は良好な職員関係性のある風通しの良い職場作りに取り組んでいる。虐待防止の内部研修を実施しており、今年度の研修では「私のトリセツ」「お助けアクション」などのコミュニケーションツールを作成し、相互理解を深めた。全職員が法人の虐待防止ブック及び全国保育士会のチェックリストを用いて、定期的に日常の保育を振り返る機会を持ち、会議等の場でお互いの言動をチェックしている。このような取り組みは子どもたちの「やってみたい」意思を尊重する保育方針とも適合し、虐待発生のリスクが軽減されている。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保護者同士が子どもと共に楽しみ思い出に残る園生活を送るために、園ができること、保護者が望むことの接点を導き出す方法を検討されたい
	内容	保護者懇談会では、子どものエピソードなど共通の話題を提供して雑談をする時間を設けている。保護者が交流する行事については、保護者からは親子で一緒に遊ぶ場の提供などの要望も寄せられている。保護者の職場環境や子育て観、価値観が多様化する中で、職場以外の集団の中で子どもへの想いを語り合える場など、保護者がどのような方法を望んでいるか、行事を園主体、保護者主体のどちらにするのかも含め意見の集約が必要と考える。卒園した後も親子ともども楽しかったと思いつく経験が、近隣の人にも薦められる園となっていく一因でもあると考える。
2	タイトル	ICT化の推進や中間層のスーパーバイズ力の向上を通じて、これまで以上に働きやすい職場づくりが進むことを期待したい
	内容	法人の業務のICT化推進の方針の下、当園ではICTシステムが導入され、多くの紙ベースの書類が電子媒体として扱われることとなり、残業時間の減少など職員の業務負担の軽減につながった。当園としては「働きやすい職場宣言」の準備に着手しており、更なるICT化の推進や公休数の増加などの職場環境の整備に取り組む予定である。人間関係が良く、風通しの良い職場であるが、中間層のスーパーバイズ力の向上を通じて若手職員一人ひとりに随時適切なアドバイスを送り、これまで以上に働きやすい職場づくりが進むことを期待したい。
3	タイトル	地域貢献の推進のため、地域を巻き込んだ保育の実践を通じ、地域とのさらなる関係強化について検討されたい
	内容	地域子育ての発信基地を理念の一つとして地域の方に開かれた保育園を目指しているため、園庭開放・水遊び・誕生会参加、七夕、わらべうたなどに地域の子どもを招き、交流を行っている。さらに、中学生の職場体験の受け入れ、小学校の町探検などのプログラムに協力し、地域の子どもを受け入れている。子どもの生きる力を高めるため、さらなる地域資源の活用についても検討されたい。例えば、協力してくれる近隣の店を探し、子どもが保育者とともに町に出ていき、お店で食材を買ったり、店員とやりとりしたりといった活動の実践も一案である。